



みなせんなかどおり通信

2021年12月14日

TEL 080-5732-3942
fax 024-953-2895
nakajiryochi@rainbow.plala.or.jp

自民県連、星北斗氏(県民健康調査検討委座長)を参院選擁立へ

自民党県連は11日、来夏の参院選福島選挙区(改選1)で県医師会副会長の星北斗氏(57)＝郡山市、星総合病院理事長＝に立候補を要請。星氏は「自分にできることは何かをしっかりと熟慮の上、ご返答申し上げます」と述べ、立候補に前向きな姿勢を示しました。(民友12/12)

「甲状腺がん多発、放射能の影響とは考えにくい」との評価を続けてきた星氏は自民党の資金管理団体の会長も務める人物

福島県では県民健康調査の一環として、事故当時18歳以下だった人たちに定期的な甲状腺検査を行ってきましたが、甲状腺がんまたは疑いと診断された人の数は252人、うち手術してがんと確定したのは202人(2021年1月15日までの県発表資料)。この他に県立医大では少なくとも19人が手術・治療を受けています(2020年2月現在)。

星氏は、2013年から東電福島第1原発事故後の「県民健康調査」検討委員会の座長を務め、「放射線の影響とは考えにくい」と評価し続けてきました。この参議院選挙擁立報道の中で、星氏が自民党の資金管理団体「国民政治協会県支部」会長を務めていることが明らかにされました。原発を推進してきた政権政党の役員が、公正中立を求められる原発事故影響の検討組織の座長を務めてきたことは、まさに「驚き」です。自民党はその功績大として擁立したのでしょうか。

岸田首相の所信表明演説で「敵基地攻撃能力」保有明示

12月6日の国会で岸田首相は、北朝鮮や中国等周辺国のミサイル基地などを日本が直接攻撃する「敵基地攻撃能力」保有を明示しました。国民民主党は憲法調査会で与党側に立って議論を進めるとしています。マスメディアの多くが「野党共闘失敗論」を振りまき、「連合」は自民党政権に接近、吉野友子会長は、衆院選告示直前に岸田内閣の「新しい資本主義実現会議」のメンバーに入っていました。参院選の構図はどんどんと明確になってきます。

市民と野党の統一候補擁立、基本政策策定に向かって

憲法改悪発議が近づく情勢の中で、私たちは戦争させない、9条を壊させない運動と一体で、参議院選挙に勝利するためのとりくみを進めて行くことが求められています。

「第13回 ミナセンなかどおり相談会」

■12月22日(水)午後1時30分～ さんかくプラザ1階 研修室

—2022年参議院選に向かって—

憲法改悪を許さない学習会・全国署名・連続イベント・野党共闘推進のとりくみ